

2016年夏季ボーナスアンケート調査（宮崎県内） ～インターネットアンケート調査～

当研究所は、宮崎県内における消費動向あるいは生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。夏季調査では、インターネットによるアンケートを実施し、結果をまとめた。

- 【調査結果の概要】**
1. 夏季ボーナスは、全体の72.7%が「支給される」と回答した。増減見込みは「同じくらい」が65.5%と、前年並みを見込む回答が最も多い。
 2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満（39.1%）」が最も多い。
 3. 使いみちは「貯蓄（66.8%）」が最多で、貯蓄の目的は「老後の生活（43.7%）」、貯蓄の方法は「定期性預貯金（57.7%）」が最も多い。
 4. ローン返済は、「住宅関連（58.0%）」が最も多い。
 5. ボーナスでの購入予定品は「衣料品（54.8%）」に次いで「靴、バッグ（29.8%）」が多く、買物予定先は「ショッピングセンター（51.9%）」が最多だった。県外での買物予定地は、九州4市（※）の中で「福岡市（47.4%）」が最も多い。
 6. 今後の旅行、レジャーは「九州内」が73.0%と最も多い。
 7. 生活状況は「変わらない（65.9%）」が最も多く、生活状況DIは「▲4.5」と前年比8.3ポイント（P）改善したが、依然マイナスの状態では余裕がみられない。
- ※ 福岡市、大分市、熊本市、鹿児島市の4市

調査の実施要領

調査時期：2016年5月13日（金）～5月20日（金）
 調査対象：宮崎県内の給与所得者
 調査方法：インターネットアンケート（マクロミル社）
 回答者数：522名

回答者の属性（単位：人、%）

年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比	
20歳代以下	92	17.6	独身	189	36.2	男性	306	58.6	会社員	458	87.7	
30歳代	136	26.1	既婚	子供有り	270	51.7	女性	216	41.4	公務員	64	12.3
40歳代	158	30.3		子供無し	63	12.1	合計	522	100.0	合計	522	100.0
50歳代以上	136	26.1	合計	522	100.0							
合計	522	100.0										

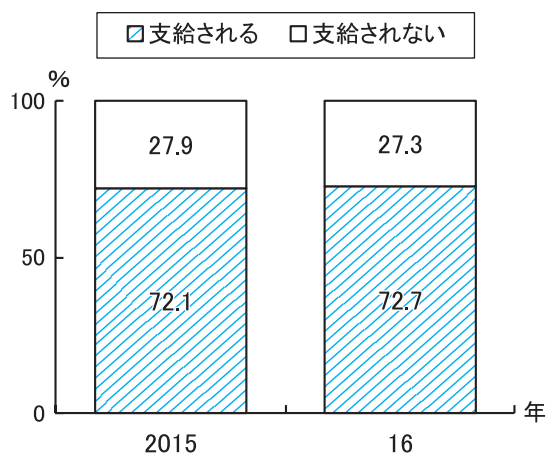
※四捨五入の関係で内訳の総和と合計は必ずしも一致しない。

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が72.7%

夏のボーナスは「支給される」が72.7%、「支給されない」が27.3%と、全体の約7割が、ボーナスは支給されると回答した(図1)。

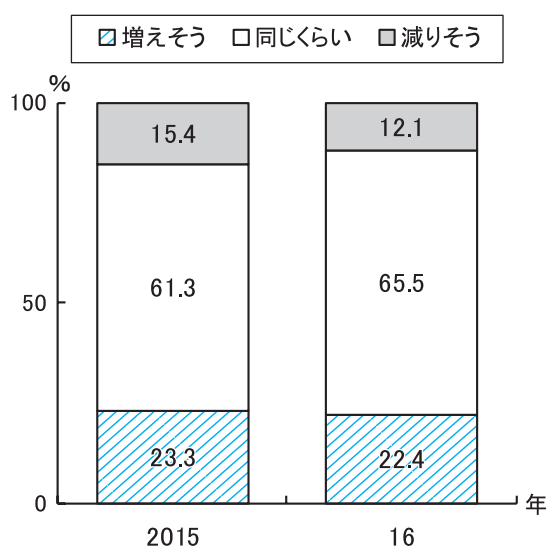
図1. 夏季ボーナス支給の有無



(2) 増減見込みは「同じくらい」が最多

今回のボーナス支給見込みは、前年と「同じくらい」が65.5%と最も多く、以下「増えそう(22.4%)」「減りそう(12.1%)」と、7割近くが前年並みのボーナス支給額を見込んでいる(図2)。

図2. 夏季ボーナスの増減見込み



2. ボーナスの見込み額

「10万円以上30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満(39.1%)」が最も多く、「30万円～50万円未満(22.4%)」と続いた(図3)。

会社員は、「10万円～30万円未満」が45.9%と最も多く、前年比6.3P上昇した(表1)。一方「10万円未満」「30万円～50万円未満」「100万円以上」の割合は、前年よりそれぞれ低下した(表1)。

図3. ボーナスの見込み額

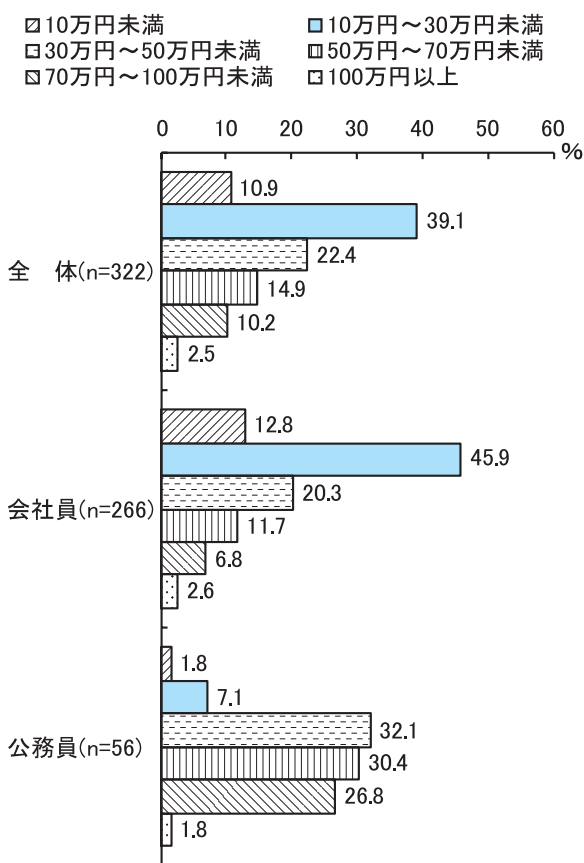


表1. 会社員の見込み額

(単位: %、P)

金額	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～80万円未満	80万円～100万円未満	100万円以上
2016年	12.8	45.9	20.3	11.7	6.8	2.6
2015年	16.5	39.6	23.8	10.4	5.8	3.8
前年比	▲3.7	6.3	▲3.5	1.3	1.0	▲1.2

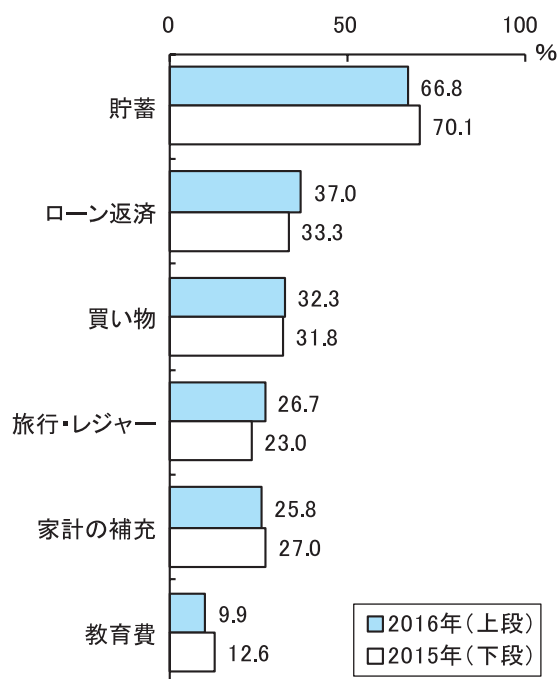
3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄(66.8%)」が最も多く、以下「ローン返済(37.0%)」「買い物(32.3%)」「旅行・レジャー(26.7%)」と続いた(図4)。

「貯蓄」は前年比3.3P低下した一方、「ローン返済(同+3.7P)」「旅行・レジャー(+3.7P)」は上昇した。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



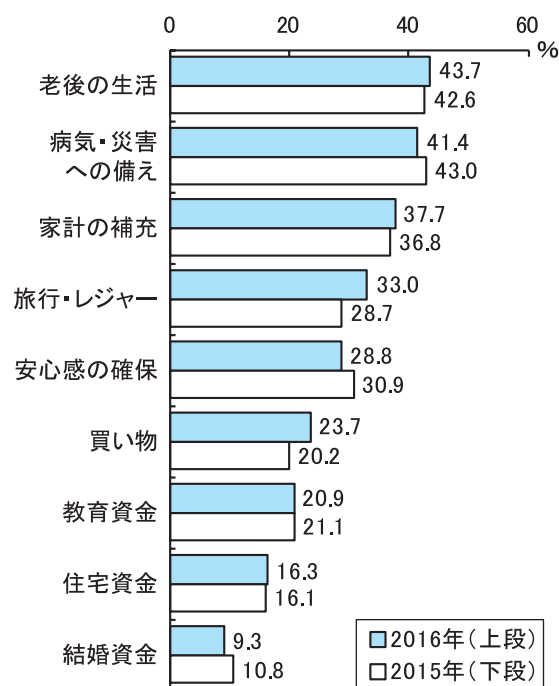
(1) 「貯蓄」

①貯蓄の目的(複数回答)

「老後の生活」が最多

貯蓄の主な目的は「老後の生活」が43.7%と最も多く、次いで「病気・災害への備え(41.4%)」と続き、将来の社会保障費や医療費、災害への関心が高かった(図5)。また、「家計の補充」も37.7%と、生活費の補填を目的とする回答も多かった。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)



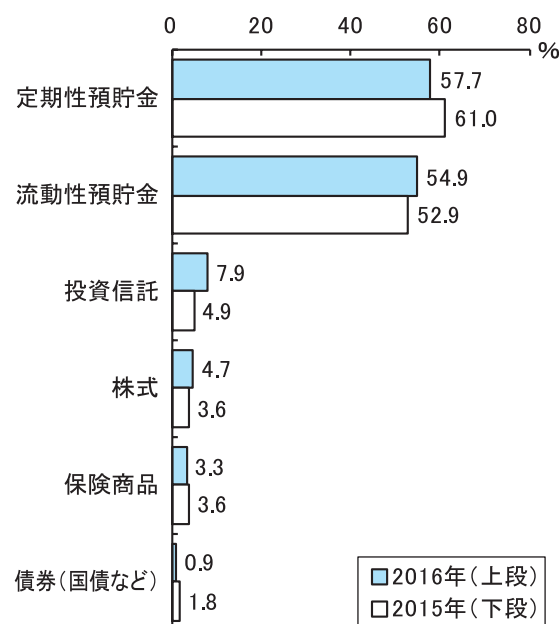
②貯蓄の方法(複数回答)

「定期性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「定期性預貯金」が57.7%で最も多く、2位が流動性預貯金(54.9%)で、預貯金志向が強い(図6)。

3位以下は回答率が1割未満と、預貯金以外の割合は総じて低い。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



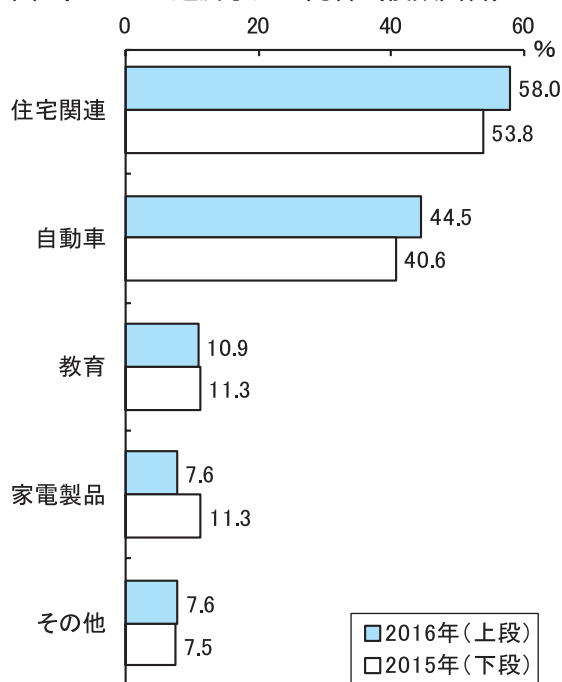
(2) 「ローン返済」(複数回答)

「住宅関連」「自動車」が2大項目

ローン返済では「住宅関連 (58.0%)」と「自動車 (44.5%)」の回答が1、2位を占めた(図7)。

前年比では、「住宅関連 (+ 4.2 P)」と「自動車 (+ 3.9 P)」が上昇した一方、家電製品は 3.7 P 低下した。

図7. ローン返済予定の内容(複数回答)



(3) 「買物」

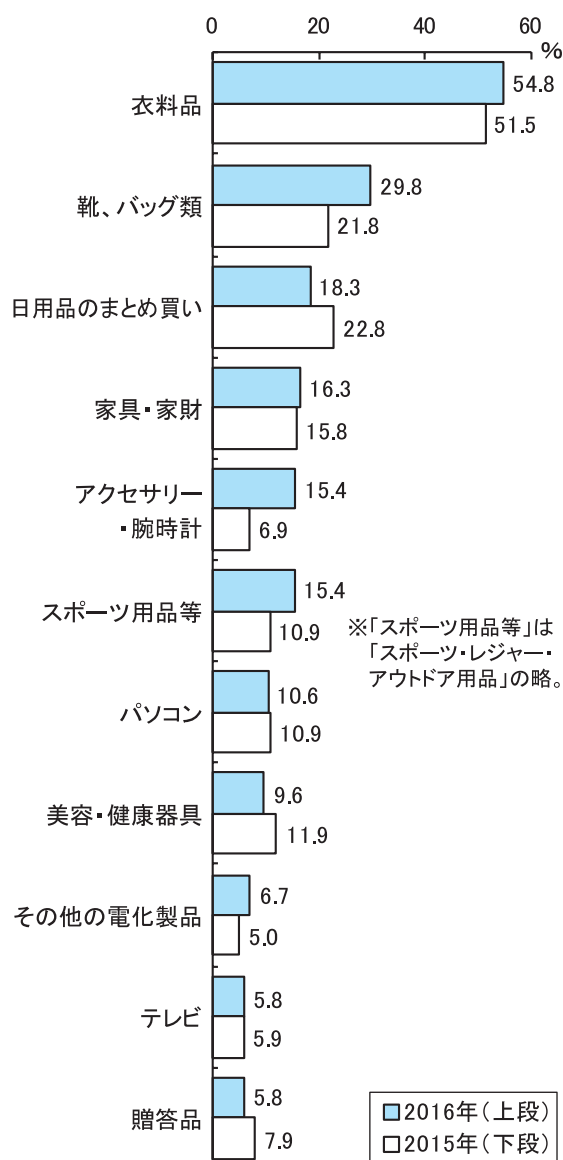
①購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品 (54.8%)」が最も多く、「靴・バッグ類 (29.8%)」「日用品のまとめ買い (18.3%)」と続いた(図8)。

前年比では、「靴・バッグ類 (+ 8.0 P)」 「アクセサリ・腕時計 (+ 8.5 P)」などのファッション関連や、「スポーツ用品 (+ 4.5 P)」の上昇が目立った。

図8. 購入予定品(複数回答)



②買物予定先の店舗形態(複数回答)

ショッピングセンターがトップ

買物予定先の店舗形態では「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(51.9%)」が最多で、以下「通販・ネット販売(44.2%)」となった(次頁表2)。

居住地別にみると、延岡市の68.2%、都城市の50.0%が「SC」と答えた。「通販・ネット販売」は都城市が50.0%と「SC」と同率になった。宮崎市は、専門店を除く全ての店舗形態で前年比低下した。

表2. 買物予定先の店舗形態（複数回答）

(単位：%)

買物先 居住地	SC (大型店)	通販・ ネット販売	デパート・ 百貨店	量販店	専門店
全 体	51.9	44.2	26.9	26.9	22.1
	59.4	48.5	34.7	33.7	26.7
宮崎市	38.9	36.1	25.0	33.3	27.8
	63.8	59.6	40.4	34.0	19.1
都城市	50.0	50.0	27.8	16.7	16.7
	58.3	50.0	33.3	41.7	25.0
延岡市	68.2	31.8	40.9	36.4	22.7
	66.7	8.3	16.7	33.3	33.3

回答者数 101 人

※上段：2016年 下段：2015年

③買物予定地（複数回答）

「宮崎地区（注1）」「都城地区（注2）」
「延岡地区（注3）」「小林地区（注5）」
は、いずれも買物予定地を地元とする回
答が最も多い（表3）。

「県外」の回答は、「延岡地区」が36.1
%（前年比+8.3P）と最も多く、東九
州自動車道の全面開通の好影響がうかが
える。

表3. 買物予定地（複数回答、居住地別）

(単位：%)

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県外
宮崎地区 (注1)	92.3	-	-	-	-	7.7
	94.5	-	-	-	-	16.4
都城地区 (注2)	47.1	76.5	-	-	-	17.6
	61.5	69.2	-	-	-	23.1
延岡地区 (注3)	44.4	5.6	55.6	-	-	36.1
	22.2	5.6	66.7	-	-	27.8
日南地区 (注4)	-	-	-	-	-	-
	100.0	50.0	-	-	-	50.0
小林地区 (注5)	100.0	100.0	-	-	100.0	-
	50.0	25.0	-	-	50.0	-

回答者数 97 人

※上段：2016年 下段：2015年

(注1) 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

(注2) 都城市、北諸県郡

(注3) 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

(注4) 日南市、串間市

(注5) 小林市、えびの市、西諸県郡

④県外での買物予定地（複数回答）

表3の「県外」の内訳では、「福岡市」
「大分市」の回答が4割を超えた一方、「熊
本市」は前年より大幅に低下し、地震の
影響がうかがえる（表4）。

表4. 県外での買物予定地（複数回答）

(単位：%)

年	福岡市	大分市	鹿児島市	熊本市
2016年	47.4	42.1	26.3	10.5
2015年	33.3	33.3	22.2	33.3

回答者数 19 人

4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間の、県外主要4市への買物
頻度は、全ての市で「1回」、行き先は「福
岡市」が最も多い（表5）。

表5. 県外での買物頻度（複数回答）

(単位：%)

頻度	福岡市	熊本市	鹿児島市	大分市
1回	53.3	37.6	46.2	47.1
	49.1	55.5	45.0	50.0
2～4回	33.3	15.2	25.2	22.9
	39.3	34.2	39.8	37.0
5～9回	8.6	3.8	9.0	6.2
	5.8	5.5	7.6	6.5
10回以上	4.8	4.3	3.8	6.2
	5.8	4.8	7.6	6.5

回答者数 210 人

※上段：2016年 下段：2015年

(2) 交通手段

県外主要4市への交通手段は、熊本市、
鹿児島市、大分市で「乗用車」が8～9
割と、圧倒的に多い。福岡市も「乗用
車（50.0%）」が最も多いが、「高速バス」
も約3割あり、長時間の運転を避け、利
便性の高い高速バスを利用する割合が高
い（次頁表6）。

表6. 県外主要4市への交通手段 (単位: %)

交通手段	福岡市	熊本市	鹿児島市	大分市
乗用車	50.0	89.8	83.6	90.8
	52.7	89.0	90.6	92.2
高速バス	29.0	8.6	3.4	4.0
	32.6	8.9	1.2	3.2
J R	3.8	-	11.9	4.0
	4.5	1.4	7.6	3.9
飛行機	17.1	-	-	-
	10.3	-	-	-

回答者数 210 人 ※上段:2016年 下段:2015年

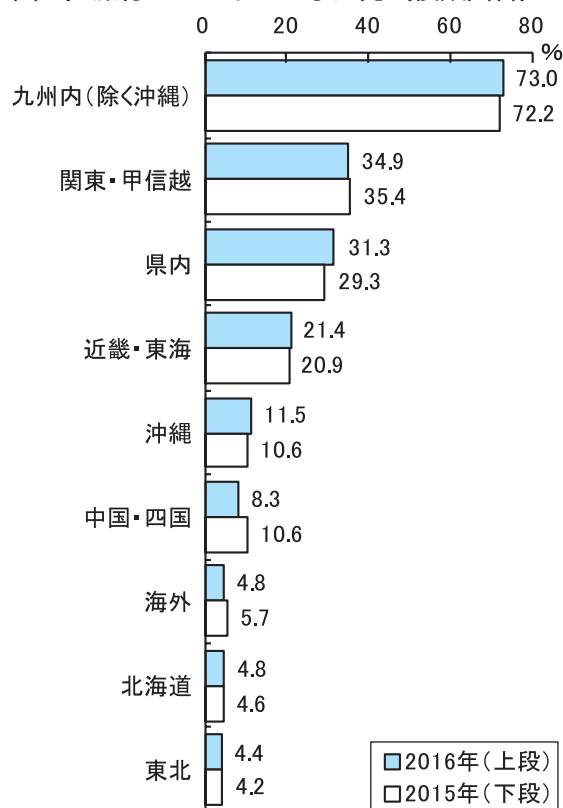
5. 今後の旅行・レジャー先(複数回答)

「九州内」が最多

今後の旅行・レジャー先は、「九州内(73.0%)」が最多で、以下「関東・甲信越(34.9%)」「県内(31.3%)」と続いた(図9)。

前年と比べて大きな変化は無く、熊本地震による影響等は、今回の調査結果に現れなかった。

図9. 旅行・レジャーの予定先(複数回答)



6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が65.9%

現在の生活状況は、全体では「変わらない(65.9%)」が最も多く、「悪くなった」が19.3%、「良くなった」は14.8%で生活状況DI(注)は▲4.5となった(表7)。

生活状況別でも、それぞれ「変わらない」が最も多かった。「悪くなった」は前年より総じて低下したことから、DIは前年比改善したものの、依然マイナスの状態で見られる。

ボーナス支給額では、前年並みを見込む回答が多い一方、医療・災害、老後への備えや生活費の補填を目的とした貯蓄志向が強く、使いみちを選別する意向がうかがえる。(勝池)

(注) DI = 「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合

表7. 現在の生活状況 (単位: %)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
全体	14.8	65.9	19.3	▲4.5
	13.6	60.0	26.4	▲12.8
衣生活	10.0	74.7	15.3	▲5.3
	9.6	70.9	19.5	▲9.9
食生活	12.5	72.8	14.8	▲2.3
	9.8	68.5	21.8	▲12.0
住生活	10.2	77.4	12.5	▲2.3
	8.4	77.4	14.1	▲5.7
レジャー・余暇等	13.4	63.6	23.0	▲9.6
	13.4	56.0	30.6	▲17.2

※上段:2016年 下段:2015年

図10. 生活状況DIの推移

